



原油、重い上値 OPECプラス重ねて減産も力不足

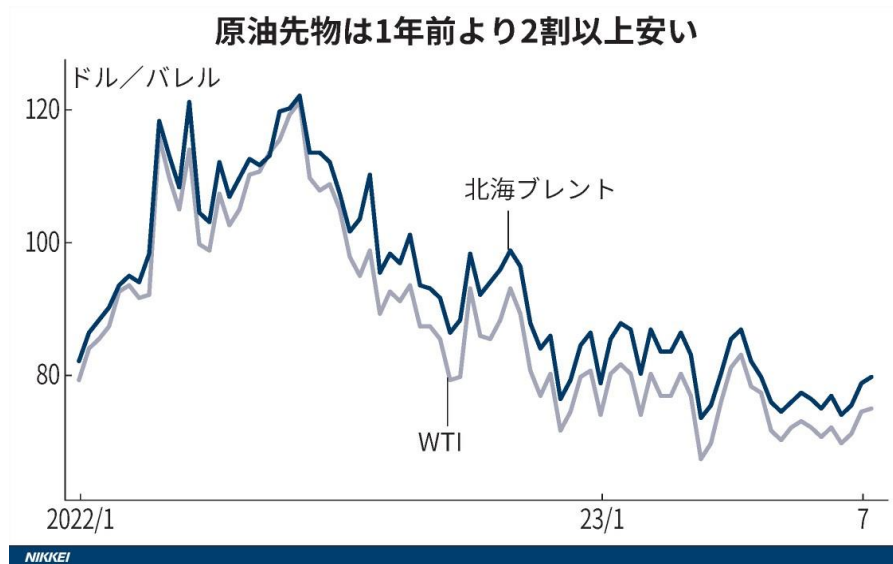
石油輸出国機構（OPEC）にロシアなどを加えた「OPECプラス」が重ねて減産を打ち出す中、原油先物の上値が重い。中国の需要が読めず、ロシアの供給がさほど減らないのが背景だ。盟主サウジアラビアが3日に表明した追加減産の継続は、相場を押し上げるには力不足だ。

「協力の質の高さは前例がない」。サウジのアブドラアジズ・エネルギー相は6月4日、OPECプラスがウィーンで開いた閣僚会合後、胸を張った。協調減産の枠組みを2024年末まで延長すると決め、サウジは独自に日量100万バレルを7月に追加減産すると宣言した。

・ゴールドマン、年末の価格見通しを引き下げ

ところが相場上昇は一時的だった。米ゴールドマン・サックスは6月中旬、年末の北海ブレント原油先物の予想を1バレル86ドルと従来の95ドルから下げた。7月3日、サウジは「予防的」に100万バレルの減産を8月も続けるとし、ロシアも8月の輸出を50万バレル減らすと表明した。

OPECプラスは日量200万バレルの協調減産を22年11月から続けている。今年4月に一部の国が年末まで実行すると表明した追加減産と合わせて366万バレル。サウジとロシアの上乗せを加えると516万バレルだ。世界需要の5%にもなる。



それでも北海ブレントは80ドル前後と1年前より2割以上安いままだ。買いが弱いのは需給両面の不透明さからだ。

需要は世界2位の消費国、中国の回復ぶりが見通せない。「ゼロコロナ」政策が1月に終わり経済活動は持ち直している。しかし工業生産など統計が回復の鈍化を示し、OPECも6月の月報で「中国の需要回復の強さを巡る不確実性が価格に下落圧力を加えた」と認めた。



供給はウクライナ侵攻で米欧日の制裁を受けるロシアが底堅い。中国やインドが割安なロシア産を買い増し、収入確保へロシアは一定の量を輸出したい。減産を徹底したいサウジとのあつれきもささやかれた。米制裁下のイランも輸出を増やしている。

需給が逼迫しないとみた投機筋が原油高に賭けなくなり、それが先物の上値を抑える構図だ。米商品先物取引委員会（CFTC）によると、投機筋のWTI（ウエスト・テキサス・インターメディアート）先物の買越残高は12年以來の低い水準にある。長期でも原油不足への恐怖感が薄れている可能性を示す。

世界需要の頭打ちが近いとの見方は広がっている。国際エネルギー機関（IEA）は6月、30年までに天井を打つと予測した。供給はかつての勢いが無い米シェールとは対照的に、サウジやアラブ首長国連邦（UAE）、イラクなど中東勢は残存者利益を狙い生産能力の増強に動いている。減産の「自主規制」が緩めば原油は出てくる、との油断がある。

・サウジとロシア、原油生産で協力確認

ロシアの民間軍事会社ワグネルが6月に起こした武装蜂起の直後、サウジの実力者ムハンマド皇太子はロシアのプーチン大統領に電話し、協力強化を話し合った。サウジなど湾岸協力会議（GCC）とロシアは今月10日の外相会議で「OPECプラスの合意を守る重要性」を確認した。協調維持に余念がない。

IEAは23年下期に供給不足が強まると予測している。一時より弱気に傾いたとはいえ、相場に上昇圧力がかかっていくとの見方はなおある。「市場の均衡を見極めるのに十分だ」。UAEのマズルーイ・エネルギー相は5日にこう語り、これ以上の追加減産はないとの見方を示している。

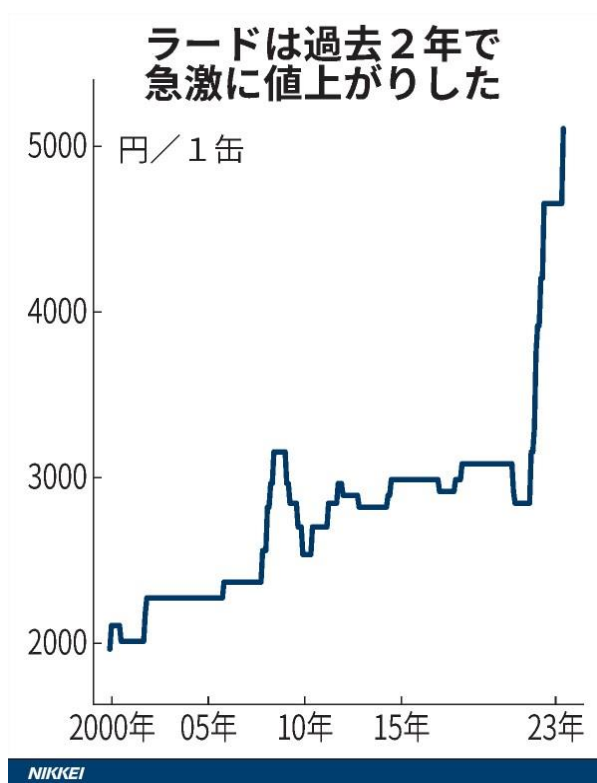


ラード最高値 バイオ燃料の需要増、思わぬ余波

揚げ油や調味料に使うラードの取引価格が1年ぶりに上がり、過去最高値を更新した。外食店向けの需要が戻るなか、原料となる豚脂の不足で品薄感が強まり、メーカーによる電気代や副資材高の転嫁が浸透した。再生航空燃料（SAF）などバイオ燃料の世界的な需要拡大が、玉突き的に原料の不足を招いた面もある。

ラードは中華料理店やとんかつ店、ラーメン店など専門店のほか、肉まんやハンバーグなど総菜や冷凍食品にも使われている。

卸価格は現在、国内の一流メーカー品が1缶（15キログラム）当たり5090円前後。前月までと比べ450円（9.7%）上昇した。値上がりは22年7月以来1年ぶり、5千円台に乗せるのは初めて。



値上がりの背景にあるのが原料の供給不足に伴う製品の品薄感だ。ラードは豚肉の加工時に出る豚脂を原料に使う。人口減少を背景に豚肉の消費が停滞。穀物高でエサ代も高騰し、廃業する畜産農家も増えるなど、豚脂の発生が趨勢的に減り、ラードの増産が難しくなっている。

原料不足に拍車をかけるのが、SAFをはじめバイオ燃料の需要拡大だ。SAFの原料である廃食油は、もともと家畜のエサとしても使われていた。SAFの利用拡大で廃食油の争奪戦が世界的に激化し、エサに回る廃食油が不足。食用に使われてきた豚脂がエサ向けに流れるようになり、原料不足が玉突き的に波及した。



豚脂の不足は慢性化の様相を帯びるものの、豚脂価格そのものは高騰に一服感も出てきた。ラードメーカーが生脂業者（レンダラー）から仕入れる原料豚脂は、1月と7月の2回にわたり値下がりした。牛脂の価格下落が波及したとみられる。

原料の値下がりでもメーカーは「供給不足そのものは継続している」と話す。日本マーガリン工業会（東京・中央）によると、全量が豚脂の「純製ラード」は1～5月の生産量が3540トンと、前年同期比15.4%減った。豚脂を主体に牛脂やパーム油などをブレンドした「調製ラード」との合計でも9960トンと同6.6%減った。

主要なラードメーカーは、原料の値下がり後も製品価格を据え置いている。逆に23年春以降は電気料金の上昇や副資材費分のコスト高を転嫁するとして、1キログラムあたり40円程度（1缶あたり600円程度）の値上げを相次ぎ打ち出していた。

品薄感の強さを背景に需要家側も値上げを一定程度受け入れているもようだ。大豆油やラードを扱う卸問屋は「既存の顧客以外からの発注は製品価格に上乘せしてプレミアムを支払わないと調達できないほど不足感が強い」と打ち明ける。

揚げ物などの需要が減る夏は一般的にはラードの不需要期に入る。ただ「秋冬に向けた在庫の積み増しが出来ていない」（別の油問屋）との声もあり、当面需給の大幅な緩和は見込みにくい状況だ。大豆油や菜種油など他の食用油が値下がりに転じる中、ラードは逆行高が鮮明な状況がしばらく続きそうだ。



日・UAE、アンモニア火力で大阪万博に電力 首脳合意へ

日本とアラブ首長国連邦（UAE）は共同でアンモニアを燃料とした火力発電を始める。UAEが環境負荷の低いアンモニアを提供し、日本の設備で発電する。2025年国際博覧会（大阪・関西万博）への電力供給をめざす。

岸田文雄首相が17日に訪問先のUAEでムハンマド大統領と会談し、気候変動を巡る共同声明に盛り込む。経済産業省とアブダビ国営石油会社（ADNOC）も共同事業に関する合意文書を結ぶ。

ADNOCが製造時に発生した二酸化炭素（CO2）を地下に貯留するなどして相殺した「ブルーアンモニア」を日本に送る。ADNOCは三井物産などと組んで25年にブルーアンモニアの量産開始を計画しており、同社との連携による輸出を想定する。

火力発電は燃料の100%をアンモニアでまかなう。IHIが政府が脱炭素事業を支援するためにつくった「グリーンイノベーション基金」を活用して発電設備の開発を進めている。大阪・関西万博までに本格稼働させる。

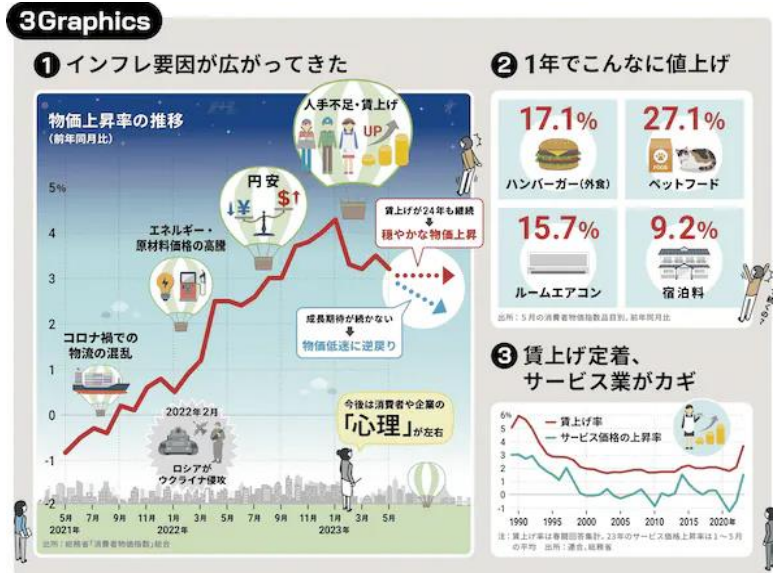
発電容量は2メガワットをめざしており、およそ1400世帯分の年間消費量をまかなう規模を見込む。万博開催期間に限った電力供給で協力する。

100%アンモニア由来の火力発電は現在、世界で日本勢だけが実証を進めている。実際の施設などで利用される電力を供給するのは世界で初めてとなる可能性がある。



変わり始めた物価と賃金

日本の物価や賃金に転機が訪れている。エネルギーや食品の値上がりが賃金に波及し、春季労使交渉（春闘）での賃上げ率は30年ぶりの高水準を記録した。長年続いた「デフレ」体質は変わり、物価と賃金が連動して上昇する好循環が生まれるのだろうか。3つのグラフィックと共に探る。



物価情勢の変化は段階を踏んできた。2021年は新型コロナ禍の物流網の混乱を受けて世界的に輸送費が上昇。22年に入るとウクライナ戦争を受けたエネルギー・原材料高、円安による輸入物価の上昇を背景に電気代や食料価格が大きく上がった。

22年12月の消費者物価上昇率（生鮮食品を除く）は前年同月比4.0%と41年ぶりの高さになった。コスト高によるここまでの物価高は第1段階と言える。

23年に入るとエネルギー価格の上昇は一服したものの、春闘で30年ぶりの高い賃上げが実現した。経営者側が生活苦に配慮したのに加え、少子化による人手不足も要因となった。従来、働き手の穴を埋めてきた女性や高齢者の労働参加も頭打ちとなり、賃金を上げないと労働力を確保しにくくなった。物価高は労働市場の変化にも引っ張られる第2段階に入った。

今後の物価を決める最大の要素は賃金だ。中小企業も含めて高い賃上げ率が24年以降も続くかが焦点になる。経営者の成長期待が強まるなら賃上げの拡大もあり得るが、環境が悪化すれば機運は薄れる。為替相場の動向も業績見通しを左右する。物価の行方は人々が経済に対して抱く「心理」にかかっている。

中でも注目すべきは接客などサービス業の動向だ。モノの値段に比べて価格が上がりにくかったが、経済に占める比重は大きい。サービス価格の本格的な上昇は賃金に波及する可能性がある。海外経済の下振れで企業業績が落ち込むリスクには注意が必要だ。